

足利市消防団と足利市議会との意見交換会 〈 実施報告書 〉

1. 開催概要

(1) 目的

本市議会では、議会基本条例に基づき市民に開かれた議会を目指すべく、議会活動と市政に関する情報をお届けするとともに、市民の皆様の率直なご意見をお聞かせいただく場として、議会報告会・意見交換会を開催してまいりました。

この度、新しい試みとして、市内各界で活躍される様々な団体の皆様と、今後のまちづくりについて意見交換をすることとなりましたが、これは意見交換を通じて市政の課題等を発見し、その解決に向けた調査研究を行うとともに政策立案や提言につなげようとするものです。

(2) 日時

令和4年11月25日（金） 午後7時開会 午後8時30分閉会

(3) 会場

足利市役所本庁舎3階

- | | |
|------------------|-------|
| ・議会報告会・意見発表（全体会） | 議場 |
| ・意見交換会（グループ） | 各委員会室 |

(4) 参加者

- | | |
|-------------------|-----|
| 足利市議会議員 | 24名 |
| 足利市消防団（正副団長、各分団長） | 23名 |

(5) 当日の流れ

- 19:00～ 開会（司会進行：広報広聴常任委員会委員長）
足利市議会議長あいさつ
足利市消防団長あいさつ
- 19:06～ 議会報告会
～各委員会室へ移動～
- 19:30～ 意見交換会（グループトーク）
～議場へ移動～

- 20：05～ 意見発表（グループごと）
足利市議会副議長謝辞
- 20：30 閉会

2. 議会報告会

（1）概要

市議会基本条例に基づき、より一層わかりやすく、開かれた市議会の実現に向けて、議会活動に関する説明責任を果たすとともに、市民参加を促進するために実施するものです。

（2）報告内容

大規模災害が発生した際の本市議会の対応等についてまとめた「足利市議会災害時 BCP（業務継続計画）」について、特に、地域防災の要となる足利市消防団が災害の最前線で対応にあたる中、市議会はどのような動きをとるのかという点について説明しました。

（3）説明者 議会運営委員会委員長

（4）説明資料等

- ・パワーポイント資料…別紙 1
- ・配布資料…別紙 2

3. 意見交換会

（1）概要

市民参加という原点に着目し、市民と共に歩み課題解決を図る議会を目指して、フリートークの車座形式により、消防団の正副団長と各分団長から日頃の思いを率直にご発言いただけるように開催しました。また、グループ編成に際しては、受付時のクジにより決定しました。

（2）意見交換のテーマ

「団運営の現状や、地域防災力の維持強化について」

（3）グループ編成…別紙 3

(4) 役割分担

- ①総合司会 広報広聴常任委員長
- ②各グループの進行役 広報広聴常任委員（6人）
- ③各グループの記録と発表者 当日指名（6人）

4. 意見発表（全体会）

(1) 概要

各グループにおける意見交換の内容について情報共有して課題解決につなげるため、意見発表を実施しました。

(2) 各グループにおける意見（要点）

【Aグループ】

- ・若い方は消防団に入らない。仮に本人が入団してもいいと言っても、親から断られてしまう。
- ・自治会の協力も中々得られない状況にある。
- ・せっかく入団してもらうことができても、結婚の機会に別の地区に引っ越ししてしまう。
- ・価値観が昔と違ってきている。勧誘の際に、入団するメリットを聞かれても答えが難しい。
- ・分団を統合してはどうかなど意見は様々あるが、抜本的な解決策は見いだせない。

【Bグループ】

- ・団員の確保がほぼできない状況である。
- ・地区内で操業する企業に、団員を出してもらうことはできないかという意見が出た。いい意見であると思える。ぜひ議会のほうからも協力いただけるようお願いしていただきたい。
- ・分団に入ると受けられる優遇策があるといい。
- ・家族の理解を得るのが難しい状況。消防団に入団すると、割引が受けられるなどの特典があれば、家族の理解や賛同が得られやすいのではないか。
- ・装備等も揃えられない状況。いくつかの団にでも、高圧ポンプ等を入れてもらえれば、万一の山林火災等においては持ち寄って対応できるようになる。

【Cグループ】

- ・特に、昼間の火災現場には出られる団員が少なくなっている。以前は自営業の人も多かったが、今は少ない。

- ・団員の確保が難しい。家族の反対もある。性質上、活動に危険が伴うことや、大変ということもあるが、そもそも消防団が持つイメージが良くないのか。
- ・慰安事業や家族も参加したバーベキュー大会等を開催することで、団の活動に対するイメージ改善が図れるのでは。
- ・消防団員の今後の勧誘をどうやっていくか、議会にも考えてほしい。

【Dグループ】

- ・報酬が個人支給となったため、団としての運営が厳しくなった。消防団としてのボランティア精神が薄れる結果も招いているのではないか。
- ・個人支給となったことで、団員の中には仕事との兼ね合いが難しくなったり、確定申告が煩雑になったりしている人もいるようだ。
- ・団員の確保については、課題としてしっかり検討していきたい。やはり団としてのメリットがないのだろうか。婚活事業などをやって、消防団に入れば結婚できるといったメリット等があれば人も入るのではないかという意見も出た。

【Eグループ】

- ・分団の運営については、分団車の更新がされないことや、団員の確保が難しいという意見が出た。市として広報してもらえないか。
- ・住民からの理解も難しくなっている。例えば、訓練等で鳴らすサイレンがうるさいとの苦情をもらうこともある。
- ・自治会との連携という点では、自治会の人一人でも団に入っていれば、地区の状況が分かるようになるのではないか。

【Fグループ】

- ・団員数が少なく苦慮している。処遇が改善されることが必要だと思う。団への交付金は団員数に合わせて削減されてしまった。手当の対象となる出勤も限られており、例えば、定期的な詰め所の清掃等で出勤しても報酬が出ない。
- ・各自治会からの働きかけなどが必要ではないか。議員の協力をぜひいただきたい。

5. アンケート集約結果…別紙4

6. 記録写真…別紙5

7. 所見…別紙6